

泉 南 市

「一店逸品運営事業」を展開
～地域商店の活性化を目指した取組～

背景

泉州の地は、古くから和泉木綿の産地として、地場産業の繊維産業を中心に地域の経済が発展してきました。また、そこで働く人々のニーズに応える形で商業も発展し、本市内にもいくつかの小規模商店街が形成されてきました。

しかし近年、繊維産業の衰退や、スーパーなどの大型店の進出、デフレ時代のモノ・サービスの低価格化、消費者ニーズの変化などが大きく影響し、地元商店は衰退の一途をたどってきました。また追い討ちをかけるように、平成16年11月に、大規模複合型ショッピングセンターが市内臨海部にオープンし、市内はもとより市外の近隣商店街にも影響をもたらしました。

とりわけ大規模店舗の出店は、地元商工会や商業者に大きな危機感を与えましたが、反面、これが、生き残りをかけた、今後の小売業の活性化策を考える良い機会となり、地元商業者が一致団結し、様々なアイデアが提起され、大型店との共存への道なども模索されはじめました。

実際、大型店進出の影響により多くの人々が泉南の地を訪れるようになったこともあり、「我々にとっては、日々の生活の中で普通になってしまっているものが、他市の人々には特別なものなのかも知れない。私たちもまだまだ気づいていないものがあるのではないかと泉南のええもんって一体なんだろう?」といった思いを改めてめぐらす中で、各店舗の他にはない逸品やサービスを掘り起こし、市内外の人々に発信、提供していく「一店逸品運営事業」が考案されました。平成17年度に地元商業者や婦人団体協議会、商工会、本市などがメンバーとなり、「逸品認定委員会」が商工会内に設置され、地域商店の活性化を目

的に、自慢の逸品やサービスを認定し個店の強みや特色を広くアピールする取組が行われています。

事業の概要

「一店逸品運営事業」では、「逸品認定委員会」を年一回開催し、事業主によるプレゼンテーションを経て、他店にはない優れた商品やサービスを発掘・創出し認定しています。認定された会員店舗数は平成17年度当初は23店舗、平成18年度には30店舗と増加しています。



逸品認定委員会

また、認定された店舗の情報を一店舗ずつ写真入りで掲載し、一目でわかるように地図で場所を案内したパンフレット「せんなん自慢の逸品めぐり」を作成し、新聞折込での配布を行っているほか、年に数回、商店街の空き店舗などを利用した展示即売会や地元で行われているお祭りなどに積極的に参加し、普及活動を行っています。本市では、こうした地元商業者が中心となった取組を支援することにより、商業者の意識改革や消費者サービスの向上につなげ

るとともに、「泉南ブランド」づくりを通じた地元産業の活性化を目指しています。

認定された「自慢の逸品」

- ・ある美容室では、車椅子のままでも入れるバリアフリー化された「別室」が用意され、希望者には自宅までの送迎もしてくれる。
- ・郵便物の配達を確実・迅速・丁寧にしてくれ、近隣の市なら60円（定型封筒）という低価格。また、はがき一枚でも集荷してくれる。
- ・エコロジーから生まれたなんでもふける「ふくぞうくん」
不織布の製造過程で規格外になった部分をリサイクルし掃除用品にしたもの。吸水性がよく、何にでも使え、洗えば何回でも使える。
- ・車検から車検までオイル無料交換
車検を受けると、次回の車検まで3,000km毎に何回でもオイル交換が無料になる。
- ・ホテルでの入浴が無料
コミュニティ活動支援サービスとして、毎週水・日曜日の17:00~22:00の間無料で入浴することができる。

事業の成果及び効果

事業の効果としては、パンフレットを見た人からの問合せ（主に商品や場所について）が増え、それにより経営者の経営に対する態度が積極的になり、事業者の意識改革につながりました。また、市内はもとより市外からもわざわざ来店してくれるお客様も増え、売上げの増加につながるとともに、認定事業者相互の情報交換が行われることで風通しが良くなり、共同による売出しなど新しい経営戦略が考えられるようになりました。

今後の展開・課題

今後は、パンフレット以外に、ホームページを作成し、「自慢の逸品」を広く紹介し、さらにはインターネット上での取引を可能にしていきたいと思えます。また、地元事業者で構成される、「まごころしょうたの会（出前宅配制度）」^(※)との相乗効果を狙った共同企画なども今後実施していく予定であり、市内外の大消費地へのPRなど事業拡大も視野に入れていきたいと思えます。

(※) 約80事業所で構成され、高齢者をはじめとする地域住民とのきめ細やかなコミュニケーションを通じた買い物出前宅配制度。



案内パンフレット「せんなん自慢の逸品めぐり」